

# 北代縄文通信

## ボランティアの会が「富山県ふるさとづくり賞」を受賞しました！

平成28年11月11日、富山市北代縄文広場ボランティアの会(以下、ボランティアの会と略記)は、あすの富山県を創る協議会から、「第26回富山県ふるさとづくり賞」の大賞を受賞しました。

この賞は「豊かで住みよい地域社会の創造」をテーマとして、地域づくり・くらしづくり・ひとづくりに積極的に取り組んでいる団体を対象として公募するもので、ボランティアの会は「まち・くらしづくり活動部門」で大賞に選ばれ、「食育推進活動」や「子育て支援活動」といった他の部門を含めた3団体とともに表彰されました。

富山県教育文化会館で開かれた表彰式にはボランティアの会を代表して西村盛一会長、頭川泰昭さん、中西登代子さんの3名が出席しました。式後の実践発表の部では、西村会長が富山市北代縄文広場の紹介とボランティアの活動状況を報告しました。

西村会長は今回の受賞にあたって、「北代縄文広場は、住民が中心となって地域の貴重な文化財を保護し、多くの市民がふるさとの歴史に想いを馳せ、楽しみながら交流する活動に取り組んできました。そうした活動に対して高い評価をいただいたことは大変光栄に思います。今後とも史跡北代遺跡の見どころを広くアピールして、心豊かな縄文文化を語り伝えたいと思います。」と喜びを語っています。



表彰式



表彰状とトロフィ

## 土屋根竪穴住居(第 70 号住居)の修理工事が終わりました！

史跡北代遺跡では平成 22 年度から国・県の指導の下で竪穴住居の修理工事を行ってきました。今回の修理はこのなかで行った最後の工事です。雨漏りにより腐朽が進んだ堰板<sup>せきいた</sup>を取替え、地下水対策(土間改修)、雨漏り対策(屋根改修)などを行いました。



修理工事前(内観)



地下水対策(土間改修)

水や湿気を通さない防水・防湿シートを埋め込みました



修理工事後(外観)

土屋根を薄くして丸太材への荷重を減らしました



修理工事後(内観)

表からは見えない土中に長寿命化の工夫があります

## 広場の木柵とサインを修理しました！

**木柵の修理** 劣化して倒壊のおそれがある木柵を金属製の横断防止柵に更新し、耐久性・安全性を高めました。



修理工事前



修理工事後



**サインの修理** 高床倉庫のサイン(磁器陶板)が劣化したため、より耐久性のあるセラミック(ステンレスホーロー)板に更新しました。セラミック板は耐久性・防汚性・耐薬品性・耐熱性・耐磨耗性・耐候性に優れ、気温や湿気などの環境変化に強い素材です。



修理工事前



修理工事後

富山市北代縄文広場ボランティアの会 平成28年度研修旅行記

## 上越、北信濃の史跡と博物館を巡る旅

守田 環

富山市北代縄文広場ボランティアの会は、平成28年10月21日(金)～22日(土)、新潟県糸魚川市の長者ヶ原考古館・長者ヶ原遺跡公園をはじめ、長野県千曲市の森將軍塚古墳・森將軍塚古墳館・長野県立歴史館、長野市の長野市立博物館・八幡原史跡公園、長野県飯山市の高橋まゆみ人形館、新潟県上越市の釜蓋遺跡公園・釜蓋遺跡ガイダンスなどを訪ねる研修旅行を行いました。参加者は13名(男性9名、女性4名)で、両日とも天候に恵まれて快適なバス旅行となり、全員無事に日程をこなすことができました。

まず初めの訪問地は長者ヶ原遺跡公園でした。今から5,000年～3,500年前の間に最も栄えた遺跡ということで、史跡北代遺跡とほぼ同時期だと思われま。広場を囲むように墓や掘立柱建物、貯蔵穴、竪穴住居などが築かれ、外側には土器などの廃棄域が広がる環状集落でした。また、この遺跡の特徴はヒスイの玉類と蛇紋岩の石斧です。近くに姫川がある関係でヒスイ玉の製作と流通の拠点となっていたようです。史跡北代遺跡からもヒスイの大珠が見つかっていますので交流があったことが伺われます。広い遺跡公園を長者ヶ原考古館の方の説明を聞きながらまわった後に、数名の地元ボランティアの方々との交流の時間を持ちました。いろいろと活動の様子を聞くことができ、大変参考になりました。

次は上信越自動車道を一気に南下して千曲市に入り、森將軍塚古墳と長野県立歴史館に行きました。森將軍塚古墳は、今からおよそ1,600年以上前に造られた全長約100mもある前方後円墳です。善光寺平を見渡す標高500mの大穴山の尾根に築かれており、当時の「科野のクニ」を治めていた豪族の墓だそうです。「森」というのは人の名ではなく地名だということで、葬られているのは



長者ヶ原遺跡公園で現地スタッフとともに

どなたか名前は分からないとのこと。現地までは麓から専用のバスで向かいました。築造当時の姿に復原された古墳は、葺石に覆われ、周囲に円筒埴輪が多く並べられており、後円部の頂上からの眺めは素晴らしいものでした。麓の森將軍塚古墳館(展示施設)では、赤く塗られた石室の石積みが見られるようになっており、副葬品の三角縁神獸鏡やヒスイの勾玉、管玉、剣、鏃、土器などが展示してありました。案内板によると、ほかにも7ヶ所の「將軍塚」と呼ばれる古墳があるそうです。

森將軍塚古墳館と同じ科野の里歴史公園内にある長野県立歴史館では、原始から現代までの歴史を分かり易く紹介していました。江戸時代の農家の建物は富山でも昭和30年頃まであったような気がして懐かしく感じました。

一日目の研修も終わり、宿泊は千曲川のほとりの戸倉上山田温泉で、ゆっくり湯につかるなど旅の疲れを癒しました。

二日目は、先ず長野市の八幡原史跡公園の一角にある**長野市立博物館**に行きました。昭和56年9月に開館した施設で、「長野盆地の歴史と生活」をテーマに展示してありました。現在から過去の地震・洪水・地すべりなどを見つめて未来を切り開くための機関としても広く活用されているそうです。短時間でしたが、博物館友の会の方々と交流し、縄文時代の展示解説の仕方にさまざまな工夫を凝らしている様子などを聞くことができました。

八幡原史跡公園は武田信玄と上杉謙信の戦いが繰り広げられた「川中島古戦場」として有名で、この日も公園内で熱のこもった解説をする男性がおられ、みんなでしばし耳を傾けました。

次に見学したのは飯山市の**高橋まゆみ人形館**でした。ここには常時100体以上の創作人形が展示しており、温もりのあるその表情に、私が子供の頃の祖父母や父母に会ったような懐かしさを感じました。見る者が自然と笑顔になれる素晴らしい所でした。

最後は**釜蓋遺跡公園・釜蓋遺跡ガイダンス**です。北陸新幹線の上越妙高駅のすぐそばにある、川と環濠に囲まれた弥生時代から古墳時代の集落跡で、現在も発掘調査が進行中とのことでした。学芸員さんから説明を聞いたあと、「応援団」と称するボランティアの方々と交流しました。いろいろと行事をやっている中でも「春まつり」や「秋まつり」には1,000人を超える参加者があって、勾玉づくりや土笛づくり、宝探しなど子どもたちの喜ぶプログラムを用意しており、いつも盛況だと聞きました。私はその時に見せてもらった土笛の現物に大変興味を覚えました。旅行から帰ってからすぐに自分でつくって吹いてみました。

2日間で5ヶ所の施設を訪問し、いろいろと楽しい研修旅行でした。

メンバーの皆さん、お疲れ様でした。

ありがとうございました。



釜蓋遺跡ガイダンスでの交流



守田さんが試作した土笛。ポーポーと良い音が出る。

富山市北代縄文広場ホームページ

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/index.htm>

北代縄文通信 第44号: 編集・発行 富山市教育委員会 埋蔵文化財センター